

通信計測ソリューションのリーディングカンパニーとして、3G/LTEのモバイル端末の開発・製造用計測ビジネスおよび通信インフラの建設・保守用計測ビジネスを拡大します。さらに、通信用電子部品の計測ソリューションや通信ネットワークの品質保証ソリューションの提供により、コアネットワークからメトロネットワーク、モバイルバックホールに至るまで、すべてのネットワークサービスの進展に貢献します。

通信ネットワークにおける計測ソリューション



ビジネス領域

計測事業は、コアネットワークからメトロネットワーク、モバイルバックホールに至るまで、あらゆる領域で計測ソリューションを提供しています。具体的には、光ファイバー網や無線基地局などのネットワーク・インフラ市場、携帯電話や多機能情報端末などのモバイル市場、カーエレクトロニクス、クラウドコンピューティングなどで

使用される通信用電子部品・デバイス・装置などのエレクトロニクス市場をターゲットにしています。グローバルな開発体制とグローバル顧客へのサポート体制の強化により、日本、米州、EMEA、アジア他で最先端の市場要求に対応した計測ソリューションを提供しています。

計測事業の戦略

1. LTE／3G関連の計測ビジネスの拡大

- LTE端末の開発用計測ソリューションの拡充
- LTE／3Gスマートフォンの普及拡大への対応
 - ▶ 端末製造用計測ソリューション、基地局建設・保守用計測ソリューションの拡充
 - ▶ ネットワーク品質保証を行うサービス・アシュアランス事業の拡充

2. エレクトロニクス市場、ネットワーク・インフラ市場での利益を伴うビジネス拡大

- 顧客ニーズに対応したアプリケーション拡充によるビジネス獲得（通信装置、通信用電子部品の開発・製造用計測ソリューション）
- 基地局などの建設・保守用計測ソリューションを各国、各オペレータへ拡大
- エンド・トゥー・エンドの品質保証を行うサービス・アシュアランス事業の拡充

計測事業の特徴およびグローバルシェア
(当社推定)

LTE 開発用計測

シェア 約50%

3G 開発用計測

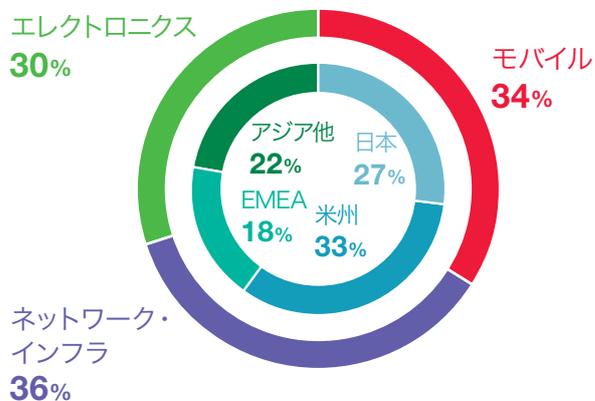
シェア 約70%

基地局建設保守用計測

シェア 70%以上

有線から無線まで通信全領域をカバー。
サービス・アシュアランス事業を展開。

計測事業の地域別売上高（内側）
およびサブセグメント別売上高（外側）



2011年3月期(当期)のレビュー

当期は、モバイル市場ではLTE方式の研究開発用計測器の需要と、スマートフォンの普及拡大によるアジアを中心とした端末製造用計測器の需要が増大しました。また、通信インフラ市場では、北米やアジア地域のインフラ整備・拡充に向けた建設・保守用計測器の需要が増大しました。その結果、売上高は534億62百万円(前期比10.8%増)となりました。営業利益

は、モバイル市場がけん引役となるとともに、投資・費用管理による効率化の結果、50億50百万円(前期比124.3%増)の営業黒字となりました。なお、東日本大震災により、計測事業の製造拠点である郡山事業所および東北アンリツ(株)は建物等に一部被害がありました。生産ラインは3月中にすべて復旧しており、当期業績への影響は限定的でした。

2012年3月期(今期)の事業環境と取り組み

モバイル市場では、LTEの本格的なサービス運用に向けて、端末と基地局あるいは既存のネットワークサービスとの認証試験や相互接続試験の需要が増大します。また、高速化・多機能化するスマートフォンに代表される端末製造用計測器の需要も増大すると考えています。こうした中、当期は進展するLTE規格への技術的対応や、グローバルに増大する顧客要望に対応するため、研究開発費などの増加を計画しています。

ネットワーク・インフラ市場では、モバイルバックホールの整備拡充に向けた建設・保守用計測器の需要が継続しています。当社の強みであるハンドヘルド計測器を

中心に、グローバルシェア拡大を図ります。また、コア/メトロネットワークに対しては、高速・大容量化の進展に応える最適な計測ソリューションを提供します。

エレクトロニクス市場では、当社が保有するベース技術を活用した汎用計測の拡充と、通信ネットワークのあらゆる領域で必要となる通信用電子部品やモジュールに対応したアプリケーションの拡充を図り、ビジネス拡大を目指します。

また、開発から生産、販売、顧客サポートに至るサプライチェーンの最適化に取り組み、計測ビジネスの収益力の向上を目指します。

中期経営計画GLP2012の達成に向かって

2010年4月に策定した中期経営計画GLP2012では、2013年3月期に計測事業売上高610億円、営業利益率10%を目標としています。通信市場では、モバイルブロードバンドが進展する中、ユーザがサービスを快適に利用できる環境として、次世代高速通信規格であるLTEの開発や、モバイルバックホールなどの通信ネットワークの整備・拡充、さらにはネットワークの品質保証などの需要が増大しており、当社の計測事業にとってビジネス機会が増えています。当社はこの

ようなビジネス機会を的確にとらえ、開発から製造、建設・保守、さらにはネットワークの品質保証に至るまで、顧客ニーズに対応したソリューションの提供と顧客サポートの強化によりビジネスの拡大を目指します。また、KPIマネジメントを推進しながらビジネスプロセスによる事業効率の改善・向上を図り、より強固な利益体質の基礎固めに取り組むことで、GLP2012の達成に向けてまい進していきます。

今後の情報通信業界の動向と アンリツ計測事業の方向性



代表取締役 専務執行役員
計測事業グループ プレジデント
田中 健二

豊富なアプリケーションやサービスを提供するスマートフォンやタブレット端末が世界的に急激に普及拡大しており、その進展に伴いデータ伝送容量も飛躍的に増大しています。モバイル通信は、人とのみならず、人と機械、機械と機械、データセンターを経由するクラウドコンピューティングなど、数多くのデバイスを通して、電子行政、医療、教育、交通、防災、環境など、あらゆる分野で利活用されています。また、アクセス端末の高速化、データ伝送容量の増大にあわせ、無線基地局などのモバイルバックホールやコアネットワークの拡充も必要になっています。アクセス端末と通信ネットワークの拡充は、先進国のみならず、各国、各地域で同時に発生しており、モバイルブロードバンドサービスの成長はグローバルに継続していくと考えています。

現在の無線通信は、GSM、W-CDMA、CDMAな

どの携帯電話の通信方式のほかに、WiFi、WiMAX、Bluetoothなどさまざまな方式があり、グローバルに普及しています。こうした無線通信を活用したサービスが展開される中、携帯電話、タブレット端末、カーエレクトロニクス、家電、スマートグリッドなど多くのデバイスにこれらの無線通信方式が使用されています。また、複数の通信方式を1チップで実現するデバイスも登場しています。

アンリツは有線から無線まで、あらゆる通信方式に対応した計測ソリューションを開発・製造・保守すべての領域に提供していきます。また、多種多様なブロードバンドサービスの品質向上に向け、エンド・トゥー・エンドの品質保証を行うサービス・アシアランス事業に注力し、モバイルブロードバンドの発展に貢献していきたいと考えています。

